

岩盤変位計の設置例（ダム岩盤部）

岩盤変位計設置図（岩盤部）

1. 位置出し

位置出しを行う。

2. 床掘

計器設置箇所にて沈下板の高さを考慮して計器設置標高まで床掘を行う。

3. 削孔

所定の深度までボーリングφ66を削孔する。
削孔後にボーリング孔内の洗浄を十分に行う。

4. ロッド建て込み

ボーリング孔の検尺を行い、長さを確認する。
ロッドにフリクションカッター材を巻き付け、順次継ぎ足しながら孔内に建て込む。
尚、アンカー部にはグラウトホースを取付けておく。
ボーリング孔頭部までセメントミルクにてグラウトを行う。

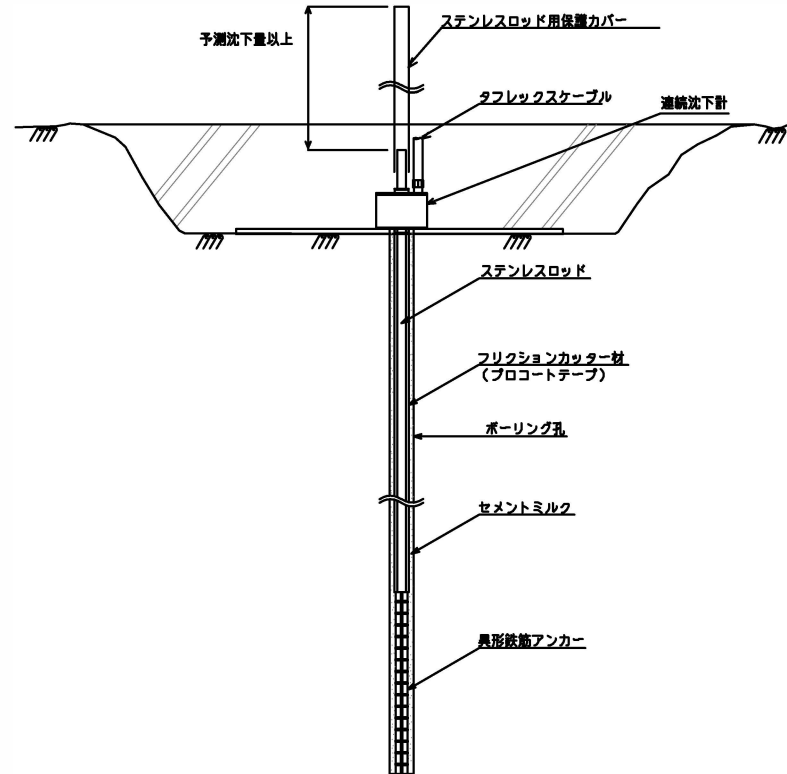
5. 計器設置

床掘面に計器設置し、初期値を確認する。
盛り立て標高までコンクリートを打設する。

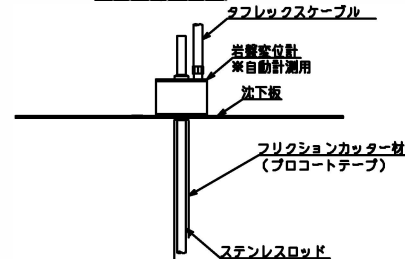
6. ケーブル処理

ケーブル引込みレベルまでケーブルを鉛直方向に立ち上げた後、水平に敷設する。
<手順はケーブル配線要領を参照>

コンクリート仕様は、本体施工要領と同材料とし、十分な強度・養生を行うものとする。



岩盤変位計詳細



岩盤変位計の設置例（ダム監査廊内）

1. 位置出し

コンクリート施工時にあらかじめ所定の位置にケーシングパイプを設置しておく。

2. 削孔

測点のアンカー点までφ66のボーリングを行う。
ボーリング掘削は若干の余堀を行う。
削孔後に孔内の洗浄を十分に行う。

3. 基線ロッドの建込

ボーリング長の検尺を行い、長さを調整する。
アンカー部にグラウト用ホースの取付を行い建込開始。
予めフリクションカッター材を巻き付けたロッドを継ぎながら立て込む。
アンカー部はセメントミルクを使用し、アンカー上部はベントナイトとセメントミルクの混合材でグラウトを行う。

4. 計器の設置

計器の動作を確認し、指示値の調整後セットする。
沈下板をアンカーボルトで固定する。
設置標高と初期値の計測をする。
計器保護カバーの取付けを行う。

岩盤変位計設置図（監査廊）

